

地域ケア会議において抽出された地域課題について

- 1 抽出対象
令和3年1月から同年12月までに開催された地域ケア個別会議（自立支援型地域ケア会議 全12回、34ケース/圏域別地域ケア会議 0回）
- 2 上記期間における会議実施状況
上記期間においては、新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」という。）の感染拡大に伴い、自立支援型地域ケア会議を参集して開催することが困難であったため、全回書面にて開催しました。そのため、各ケースが抱える個別課題の解決に対しては、多職種による協議から解決策の考案に至るものの、そこから見える地域課題の把握が非常に難しい状況でした。
- 3 抽出された地域課題
前述2のとおり、地域課題を把握が非常に難しい状況でしたが、コロナ禍において会議に提出されるケースの特徴から本市の特性が見えてきました。また、その特性により今後危惧されることが把握できましたので、下記にコロナ禍における地域課題として抽出しました。

提出されたケース	ケースの背景	見えてきた本市の特性	危惧されること・対策
<p>コロナにより、これまで不要だった介護サービスの利用を開始しなくてはならない状態になってしまったケースが多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ほとんどのケースがもともとは元気アップトレーニング（百歳体操）や趣味活動等の地域の通いの場に参加し、社会参加をしながら、健康づくりに取り組んでいた。 ・ コロナ禍になり、通いの場の活動も停止し、外出頻度の減少や地域との関わりがなくなったことから、社会的フレイルが進み、心身の状態が悪化したことで、介護保険の利用を開始。 	<p>介護保険サービスに頼らず、通いの場等の地域資源を活用し、健康づくりに取り組んでいる高齢者が潜在的に多くいる。</p> <p>【要因】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本市の通いの場の数は、ほとんどの地域で国で示す基準数を超過しており、市域に十分な数があることで、高齢者が参加しやすい環境にあること。 ・ また多種多様な活動の場となっており、そこで活動することが、元気高齢者を生み出す源の一つとなっている。 	<p>コロナ禍が続くことで、今後、左記のような、これまで元気だった高齢者の社会的フレイルが促進→身体的、精神的フレイルの増幅→状態が悪化し介護保険サービス利用、といったケースがさらに増える可能性がある。</p> <p>【対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ もともと健康づくりに意欲的だった高齢者が多いため、積極的に市の介護予防事業に参加できるよう情報の周知を行う（一般介護予防事業の活用）。 ・ コロナ禍でも活動できているグループもあることから、そのグループの実施方法を高齢者相談センターや生活支援コーディネータが圏域内で横展開することで、新しい生活様式に対応し、活動再開に向けた一助とする。 ・ 一時的に介護サービスを利用することになったとしても、以前やっていた活動に戻れるよう支援者が本人のモチベーション維持を心掛ける必要がある。